

祈りに徹する

出口公一

平成5年8月 夏季甲府布教
水戸 豊田聡志

明主様 御讃歌

人々よ 吾を信ぜよ信ずれば 無限の幸を豊に恵まう

奇しびなり 嗚呼奇しびなり願事の 正しかりせば叶えますなり

無限絶対無始無終 これぞ宇宙の真理なりける

人によく 思われたしと思う人 おおかた神を忘れがちなる

人の眼は 偽り得ても神の御眼は 偽り得ぬを知る人の幸

愚かなる 人とは悪の種を播き 刈り取る悩み知らぬぞいう

禍と 吉き事一度に来つるなり 世の替り目の時となりなば

会主様お言葉

信仰とは「信」の追求！！

どこまで神様を信じ切れるか。

どこまで明主様を信じ切れるか。

出口公一先生お言葉

強烈にキャッ！！と祈ったら、後は揺るぎない信念でひたすら猛烈に禊ぐ(努力)、そうしたら100%間違いなく結果は出てくる。

■霊主体従の法則（想念の重要性）

体主霊従 つらい現実を見て自分の心の中を決めてしまう事
一般の人がする事

霊主体従 想念で目の前の現実を変えていく事
明主様信仰者がする事

その人が考えている事で、その人の存在価値が決まってしまう。

布教とは人の心を変える事。布教とは他人の心を変える事。

布教しに甲府に来ているのに逆につらい現実には布教されて帰ってくるのは馬鹿のする事。

布教者はつらい現実には布教されてはならない。

こちらが想念を持ち続ければ、相手が変わるしかない。

自分にたいした布教力はないから、神様、明主様におすがりしきって頼り切る信心。

神様を信じ切る訓練だと思って信じ切る。

自分の祈りは必ずお許し頂けると信じ切って祈る事。

自分の祈りに自信があれば必ず神様に通じるはず。

日常の一部始終は神様に見られているから必ず祈りは通じる。

思い念じる事が想念、思い念じる事を神様にお捧げするのが祈り。

有限相対の人間におすがりしてもお力は頂けない。

無限絶対の神様、明主様におすがりするからお力を頂ける。

自分の心の中では、神様は有限なのか？無限なのか？という事だけ。

自分の言葉で自分のやり方でする布教



これが通じなくなったら



神様の無限の神力に頼る布教に切りかえる。

[自分] → 祈る → [神様] → お働き → [相手]

明主様信仰に八方塞がりは決してない。

祈れば必ず道は開ける。正しい祈りは叶えてくださる。

目の前に必ずご守護をくださる。

神様、明主様のご神格を考えれば、すぐに分かる事。

■霊主体従の法則（祈りの重要性）

布教で成果をあげる人、祈り方が全然違う、非常に具体的に祈る。
他人から漠然とした頼みごとをされたら困るではないか、
神様も同じ気持ち。
神様は、布教者の心からの叫びの祈りを待っている。

布教の祈りには5 W 1 Hが必要、
いつ、どこで、だれが、だれに、なにを、どのように。。。。

布教者はその日の事を反省して、翌日取り組む祈りを考える。
祈りの内容によって祈りの実現スピードが変わってくるから、
よくよく祈りの内容を吟味して決めてから寝る。
翌日、その決めた祈りに徹すれば不安や迷い諦めはなくなる、
祈りが強烈であれば奇跡が起きる。

会主様は、どこにいらしても、何をなされていても、
常に神様、明主様に祈ってらっしゃる。

一番いい心境、何事も人事を尽くして、後は神仏にお任せする心境。

どんなに出来そうもない状況でも祈り続けて努力し続けて神様に見てもらおう。

目標を立て、最後の一分一秒まで信じ切って頑張る。
その結果できなかつたら謙虚に反省して、
また目標を立て、最後の一分一秒まで信じ切って頑張る。
目標達成するまで信じ切って頑張る。

ある時期、一旦、神様、明主様OK！！ってなったら、
時間、場所、状況に関係なく、無限絶対の神力で状況を変えてくださり、
100%間違いなくお許しくださる。
神様、明主様からOKサインを貰うまでひたすら頑張る。

今、自分が神様に祈れているか、祈れてないか意識しない考えない。
そう意識しているだけで十二分に神様に祈れている証拠。

明主様は神様なんだから、人の心を変えたり、人にお導きをさせたり、美術館を作る事など朝飯前。神様なんだから不可能はない。
ナンセンス、神に不可能はない！！

神様は無限に高いレベルにいらっしゃる。

人は無限に高い神様のご神格を、
その人の人生経験や価値観でしか認識理解できないレベルにまで
神様のご神格を引き下げて認識理解している。
本当は物凄く高いご神格の神様なのに。

■霊主体従の法則（霊界から現界への物象の移写）

邪神活躍 『地上天国』19号、昭和25(1950)年12月25日発行

そもそも、万有一切は霊主体従の法則によって動きつつある事は、今更言うまでもないが、あらゆる物象の動きは、霊界に先に起り、現界に移写されるとしたら、その場合時間の遅速があるのはもちろんで、これはその事象の大小によるのである。

すなわち速きは数日、遅きは数年経ってから移写される事もある。しかし、これが昼の世界になるに従って短縮されるので、最近に到って余程短縮されたようである。それどころか現在の霊界は、かつてない程の混乱状態を呈していると共に、変化の激しい事も、よく世の終末を物語っている。

（中略）

要するに、一切は主神の経論であって、文化発展上、正邪相争い、明暗、美醜相混じり、かくして一步一步理想に近づくので、これも深奥なる御神意であって、到底人智の窺い知るを得ざる事を知るべきである。

結局は「一切は主神の経論」という事は、
日常生活の全てが「主神様の経論」という事になる。
森羅万象の全てが「主神様の経論」という事になる。
目の前に起こる事全てが「経論」だと思うと有り難い気持ちになる。

何事も、どんな小さい事象も、霊界から現界に移写して起きてくる事が理解できるようにする。

現界の、今現在の心言行が未来の霊界を創造しているのだから、悪の心言行ほど割の悪い事はない。

悪の心言行が未来の霊界を穢れ曇らせるから、
いつれの日か霊界から現界にそのまま移写し、強烈な浄化作用が現界に起こるのは明らかな事実。

毎日、感謝し続けると霊主体従の法則によって幸せになります。

神様から霊線を通じて自分の魂に光を頂けるから幸せになります。

毎日、不平を言い続けると霊主体従の法則によって大浄化します。

霊界に曇りが増え魂が汚れるから大浄化してつらい思いをします。

万有一切の根源で無限絶対の力徳である大宇宙の主神様に感謝。

結局、大宇宙の主神様に感謝できないと人生はうまく行かない。

■浄化作用

ある日突然に浄化作用が来たら、嫌だと思わず、シメタと思う事。
なぜか？ 魂が浄まっている証拠だから。
浄化作用が起こるには。

- ① 神様から神光を頂いている証拠。
- ② 先祖が子孫に気付かせる為に浄化させている証拠。

苦しみは神様が与えている。与えられているんだから感謝。

悩み苦しんだら

「神様ありがとうございます」「明主様ありがとうございます」

落ち込んだら

「神様ありがとうございます」「明主様ありがとうございます」

ピンチがチャンス。

浄化作用は苦しいが、神様からご守護頂く絶好のチャンスでもある。

邪神が最も恐れる言葉

「神様ありがとうございます」「明主様ありがとうございます」

穢れ曇りのある所は必ず自然浄化作用が起こるのは天地の厳然たる法則。

人間の魂も同じで穢れ曇りのあると災難にあってしまう。

魂の穢れ曇りと取るように心掛けないとつらい目にあう。

善の心言行か、悪の心言行か。

あの世に持っていけるのは、この世で積んだ徳だけ。

■最後の審判

明主様は御論文の中でお説きくださっている。

神は助けようと思って、筆先でなんぼ知らしてやれども、いつも鳴く鳥（からす）の声と油断を致していると、今に枴麵棒（とちめんぼう）をふるって、逆さになってお詫びをせんならん時が来るが、その時になっては、神はそんな者にかもうてはおれんから、身から出た錆とあきらめて往生致そうより仕様がなないぞよ。

すなわち大危機が迫っており、それを乗越すには心が浄くなければならない。悪人は転落して、永遠に滅びる。

もちろん霊界に火素が殖える結果として浄化力発生と共に時の経過に正比例して漸次強化されるのである、その表われとして善悪正邪は明らかとなり全人類に浄化が行われる。

なるほど誰も彼も一人残らず救ってやりたいのは山々だが、右のごとくであり時の進むに従い、救われる人と救われない人とは自（おのずか）ら判るようになるからで、これは神意である以上、いかんともし難いのである。

悪人は転落して、永遠に滅びるという事は、救われない魂は永遠に魂ごと滅びるという事。

自ずから判るという事は、自然に善悪が裁かれるという事。
自ずから判るという事は、自分自身で救われるかどうか判る事。
自ずから判るという事は、自分自身が救われるかどうか判る事。

これは神意である以上、いかんともし難いのである。という事は、もう既に未来の霊界では、悪人は神様から裁かれて永遠に滅びているという事。それが霊界から現界に移写して、悪人は淘汰される事。

善悪正邪は誰の目にも明らかな世の中となる事。

悪人は住めない世の中になってくる事。

悪人は自業自得の世の中がくる事。

悪人は勝手に滅びるのだから放っておけばいいだけの事。

結局、善人には楽しく、悪人には悲惨な世の中になる事。

■魂を浄化させる三つの方法

- ① 善徳を積み神様から神光を頂く事、又は祈りによって神光を頂いて魂を浄化させる方法。
- ② 悩み苦しみ病気災難等で魂の曇り・罪穢れを払拭して魂を浄化させる方法。
- ③ 美術館の美術品を見て、美術品から発する霊光を頂いて魂を浄化させる方法。美術品の多くが昔から祈りの対象になっていたから、美術品には魂が宿っている、だから霊光を発する事ができる。

■瞬間移動

瞬間移動とは、自分の意識・想念を急激に変化させる方法。

過去の事は全て忘れる。

過去に失敗した記憶や駄目だった記憶も全て忘れる。

そして、自分が真の無限なる自分だと確信する。

過去に失敗した経験を引きずってでは、瞬間移動できない。

神様の絶対性を理解できないと瞬間移動できない。

自分の中の「出来るわけない」という「思考の鎖」を断ち切る事。

無限絶対の神様がお許しになれば、
どんな状況下でも瞬間移動できるようになる。

かもめのジョナサンのように自由に瞬間移動できるようになる。

瞬間移動するのに、何か特別の信条は要らない。
なぜか？当たり前のように瞬間移動出来るから。

■限界突破

限界突破とは今まで経験した事の一步上を目指す事。

限界突破すると目の前が開けてくる。

やるしかない！！と思ったら、神様、明主様にすぎるしかない。

お許し頂きたいと思ったら、限界突破をお許し頂けるようになる。

限界突破をすると神様から素晴らしい何かを頂けるようになる。

夏季布教も後半になると二つのグループに分かれる。

最後まで神様、明主様を信じ切る人のグループと、

途中で諦める人のグループとに分かれる。

ちょっとした差が、最後には大きな結果の差になって現れてくる。

自分の心の中の「信じ切る心」の限界突破。

■霊線について

霊線に就て 『信仰雑話』 P.95、昭和 23(1948)年 9 月 5 日発行

(前略)

霊線は人間においては生きている近親者のみではない。死後霊界における霊とも通じており、正神に連結している霊線もあり、邪神に連結しているそれもある。正神は善を勧め、邪神は悪を勧める事はもちろんで、人間は常に正邪いずれかに操られているのである。

(中略)

神仏といえども正邪があり、正神からの霊線は光であるから、常に仰ぎ拝む事によって人間の霊魂は浄化されるが、邪神からは光どころか一種の悪気を受ける事になるから、思想は悪化し不幸な人間となるのである。

(後略)

「人間は常に正邪いずれかに操られている」って事は、邪神に操られない為には、正神に向かって祈り続けて神光を頂き続けて魂を浄まり続けるしかない。

お祈りするだけで魂が浄化、浄まるのなら、お祈りした方が絶対に得。

神様と人間個人と霊線で直結していると言う事は、神様と人口 7 0 億人分の霊線が存在していると言う事になる。

神様は同時並行に同時進行に 2 4 時間 3 6 5 日、7 0 億人の心の中を見透かして、個人個人にご守護を与えている訳だから神様のご神格は人間の想像を遥か超える。

しかし、それは神様のご力徳のほんの一部に過ぎない。無限に偉大な神様の全てを識る事は、人間には不可能な事。

人間に出来る事は、
無限絶対の神様のご神格を毎日毎日、少しでも理解し続ける事。
ご神格を理解し続けると、素晴らしいモノが毎日のように頂ける。

■正義感

正義感 『栄光』240号、昭和28(1953)年12月23日発行

今更こんな事を言うのは、余りに当り前すぎるが、実をいうところの当り前が案外閑却されている今日であるから、書かざるを得ないのである。それはまず現在世の中のあらゆる面を観察してみると、誰も彼も正義感などはほとんどないといってもいい程で、何事も利害一点張りの考え方である。

(中略)

では正義感の不足の根本は何かというと、すなわち眼には見えな
いが、霊の世界というものが立派に存在しているのである。そう
してその霊界には神の律法というものがあって、人間の法律とは異
(ちが)い厳正公平、いささかの依怙(えこ)もなく人間の行為を
裁いているのである。ところが情ないかな人間にはそれが分らない
ためと、また聞いても信じられないためとで、知らず識らず不幸の
原因を自ら作っているのである。

そんな訳で世の中の大部分の人は、口では巧い事を言い、上面
(うわつら)だけをよく見せようとし、自分を実価以上に買わせよ
うと常に苦心しているが、前記のごとく神の眼は光っており、肚
(はら)の底まで見透かされ、その人の善悪を計量器(はかり)に
かけたごとく運不運を決められるのであるからどうしようもない。
(後略)

人間の法律とは異(ちが)い厳正公平、いささかの依怙(えこ)も
なく人間の行為を裁いているのである。

前記のごとく神の眼は光っており、肚(はら)の底まで見透かされ、
その人の善悪を計量器(はかり)にかけたごとく運不運を決められ
るのであるからどうしようもない。

悪の心言行ほど、神様に裁かれるようです。
悪の心言行ほど、割の悪い事はないです。

■守護神

明主様は、人間には三つの守護神が守護していると説かれている。

- ① 本守護神 神様の分霊、神様の分け御霊（わけみたま）
- ② 正守護神 先祖の中で選抜された代表の霊
- ③ 副守護神 動物霊

神様のご用をさせて頂いて光を貰うと、本守護神と正守護神の威力が増して動物霊の副守護神が萎縮する。

本当に魂の霊層界が上がってくると、
神様の分霊、神様の分け御霊の本守護神の威力が発揮される。

自分は何もせずジッとしていても、自分の周りで奇跡がどんどんと起こるようになってくる。

会主様のようにご自身では何もされなくても、ご自身の周りで奇跡がどんどんと起こるようになってくる。

神様の分霊、神様の分け御霊の本守護神の威力を発揮するには、自分の魂を磨き倒すしかない。

神様の分霊、神様の分け御霊の本守護神の威力を発揮するには、自分の魂の曇り・罪穢れを払拭するしかない。

結局は祈り続けて感謝し続けて本守護神の威力を増すようにする事。
身魂磨きに徹する事が大事。

本当に、人間を守護している本守護神が、無限絶対の神様の分霊、神様の分け御霊だと理解すると、とても有り難い気持ちになる。

布教をしていると金粉や銀粉が手の平や手の甲に出現する事がある。

無から有を生じる事は、相対性理論が破綻するようなどてつもないエネルギーがないと出現しない。

無から有に物質が生じる事は、相対性理論が破綻する事。

$$E = mc^2$$

神様のご力徳は、相対性理論を遥かに超えるもの。

神様のご力徳は、相対性理論では考えられない事。

でも神様は本守護神を通じて、簡単に金粉や銀粉を与えてくださる。

■感謝

人間は想念次第 寸評（光 25 号） 白光生 『光』25 号、昭和
24(1949)年 9 月 3 日発行

感謝が感謝を生み、不平が不平をよぶとは正に真理だ、何となれば感謝の心は神に通じ不平の心は悪魔に通ずるからだ、この理によって常に感謝をしている人は自然幸福者となり常に不平不満や愚痴を言う人は不幸者になるのは事実だ、大本教のお筆先にいわく「喜べば喜び事が来るぞよ」とは正に至言である。

何にも無くとも、とりあえずバカみたいに喜ぶ、そうすると「喜び事」の方から勝手にやって来る。

これは神様が決めたこの世の真理、この事を誰も否定したり妨害できない。

「ありがとう、ありがとう、ありがとう」と言って感謝のカタマリになると神様は喜ばれるらしい。

感謝できない事に感謝するのが本当の感謝。

片腕なくなっても感謝。目の前で両親を殺されても感謝。

泣きながら感謝する事が本当の感謝。

魂のレベルが上がってくると、感謝できない事に感謝できるようになる。

魂の霊層界を上げた人の勝ち。

多次元思考が霊層界。霊層界を三次元的感覚で捉えては駄目。

想念はナマモノ、想念は放っておくと、すぐ腐る。

常にみずみずしい感謝を保つ為には、常に感謝し続けねばならない。

目が見える事に感謝。呼吸ができる事に感謝。

心臓が動く事に感謝。手足が動く事に感謝。

常に足るを知って満足する事。
日常生活の中で、基本的な事に感謝できないと幸せは来ない。
感謝の極意は、小さく、細かく、丁寧に、感謝する事。

全ての体験・経験が人間を成長させる。
全ての体験・経験が人間の魂を向上させる。

無駄な経験や無駄な人生などない。全てに意味がある事。
全て神様が与えてくれたもの。

生死の境を彷徨うような体験をした人は霊的に大きく向上する。

才能がある人や能力がある人が強いのではなく、
どんな逆境でも感謝できる人が一番強い人。

■徹夜の祈り

体は寝ていても、想念は一晩中に祈り続ける方法。

夜寝る前に布教の対象者の事をしっかりと祈る。そして寝る。
朝起きてパッと目が覚めた時に布教の対象者の事を考えていたら、
それは一晩中祈っていた事と同じ事。

■ご奉仕

精一杯の奉仕の基準、明主様ご西下の折の秀明の大奉仕精神。
ご用の基準、会主様。

お捧げする事は、頂く事。

会主様は、神様に何もかもお捧げしきった、だから神様から沢山の
ご守護・モノを頂いた。

神様にお捧げする事は、神様から頂く事。
宇宙にお捧げする事は、宇宙から頂く事。
（宇宙に対して、投げかけたモノが返ってくる事。）

その人が宇宙に感謝を投げかけると、その人が感謝に包まれる状況
が宇宙から返ってくる。
その人が宇宙に不平不満を投げかけると、その人が不平不満に包ま
れる状況が宇宙から返ってくる。

人間は表面ばかり見て、小さい些細な事は見てくれない。
神様、明主様はどんな小さい些細な事も見ていてくださる

神様は、その人にピッタリしたご守護・モノをくださる。

神様のご用をだんだんしてくると、
その人の長所だった所が短所になり、短所だった所が長所になる。
神様にだんだんお仕えしてくると、
その人の長所だった所が短所になり、短所だった所が長所になる。

その人が我を出すと長所だと思っていた所が、
その人の私の為に短所になる。

自分で自分の我を殺す事ができないと神様のご用はできない。

大本教のお筆先に、

「我がなくてはならず我があってはならず、我があって我を出さないのがよいのであるぞよ」

とある。

人の長所短所で他人と比べても仕方ない事。自分は自分。

結局は、自分と神様の関係がどうか？という事。

■御論文の拝読

明主様の御論文をしっかりと読ませて頂く事。

本来、明主様の御論文は分析する為に書かれたものではないが、時に、より深く理解する為、分析しながら拝読する事も必要。

明主様が書かれた御論文の行間を、かじりつくように拝読する事。

本気で拝読させて頂くと、明主様のみ心がだんだん分かるようになる。

御論文の拝読は力。

拝読をさせて頂くと、その人自身の力が漲ってくる。

■会主様

ある人が、会主様のお側の奉仕者に聞いた。

会主様について何か特別の事を一つ教えてほしいと。

プライベートな事については一切言えない。

ただ一つだけ言えるのは、会主様は物凄く秀明紙にお力を入れている。

だから。秀明紙からはお光がいっぱい出ている。

会主様のお心を分かりたかったら、美術館に行くのが一番いい。

なぜ、明主様や会主様は、美術館をお建てになろうとしたのか。

美術館に行けば、その理由がハッキリ分かるはず。

自分の魂で直接に感じ取ればいい事。

■祈りの色々

神様への祈りには5 W 1 Hが必要。

いつ、どこで、だれが、だれに、なにを、どのように。。。。

When Where Who Whom What How

まずは神様に感謝して、自分の名前を名乗ってから、5 W 1 Hで、しっかりと祈る事。

よくよく考えて、祈る要点を吟味してから祈る事。

祈りの色々な例

神様、明主様ありがとうございます。

青年エリートの豊田聡志でございます。

私は布教の实践中に想念が散って布教に集中できません。

どうか私に神様を最後まで信じ切る心をお与え下さいませ。

神様、明主様ありがとうございます。

豊田聡志でございます。

高校の同級生だった勝沼かつえさんについてお祈りさせていただきます。

どうか勝沼かつえさんの魂と、勝沼かつえさんの先祖の魂の全員が
霊界で永遠に幸せになりますよう、ご守護をお与え下さいませ。

どうか何卒、勝沼かつえさんと先祖の全員にご守護を下さいませ。

神様ありがとうございます。

豊田聡志でございます。

どうか勝沼かつえさんの魂が霊界で永遠に幸せになりますよう、ご
守護をお許し下さいませ。

勝沼かつえさんの魂は本当に素直な魂だから、ぜひ神様に祈ってみたいと思う。

自分なりに色々祈りの内容を試してみるといい。

本当に勝沼かつえさんのことが大好きです。

最初に会った時から、とても美人で素直な女性だなと思いました。

勝沼かつえさんは、とても魂が素直な人です。

結局この世は修行の場で、救われる人と救われない人との立て分けの世界だから。

結局この世は修行の場で、救われる魂と救われない魂との立て分けの世界だから。

神様に自分の魂を立て分けられる前に、徳を積んで修行したほうがいい。

不平不満・愚痴・悪口を言う人は、魂に曇りが増えて不幸になるだけだから。

自分の置かれている現状に文句を言う人は、魂に曇りが増えて不幸になるだけだから。

自分の置かれている現状は、如何なる現状でれ、神様からのお慈悲で与えられた現状だから。

だから今置かれている現状に最大限の感謝。

無い物ねだりをして不平不満を言っても仕方ない。今現在、神様から頂いている物に最大限の感謝

私も勝沼かつえさんが欲しいと言って神様に無い物ねだりをお祈りしている訳ではないです。

ただ勝沼かつえさんの魂が神様から救われて永遠に幸せになってほしいと祈っているだけです。

勝沼かつえさんの魂が幸せになれば、それ以外の事に興味はありません。

毎日農作業をしていますが、朝から晩まで、大宇宙の神様に勝沼かつえさんの事しかお祈りしてません。

之も慢心 『栄光』121号、昭和26(1951)年9月12日発行

(前略)

もし間違ったり、悪人であれば、

神様がチャンとお裁きになられるから少しも心配はないのである、

だから人間が心配や取越苦労などするのは、

神様の御力を信じていないからという事になるではないか、

(後略)

このファイルは、
昔、30年ほど前に（1993年8月に）（平成5年8月に）、
緑色のルーズリーフ（ノート）にメモしてた内容の一部です。
ノートの原本は手元にはありません。

全文を読みたい方は、インターネット上で検索してダウンロードして、お読み下さい。